ニッケイ新聞
JORNAL NIKKEY SHIMBUN
DIRETOR PRESIDENTE
RAUL M. TAKAKI
JORNALISTA RESPONSÁVEL
TAKAO MIYAGUI
Rua da Glória, 332 - Liberdade
CEP 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
Tel (11) 3340-6060 | www.nikkeyshimbun.jp

ボルソナロ

２２年大統領選はモウロン抜き？

かねてから存在した相違点

副大統領は知事選出馬か？

ボルソナロ大統領が、２０２２年の大統領選には、現職のアミウトン・モウロン副大統領を副候補として選ばない考えであることを周囲に明かしていると、１９日付フォーリャ紙が報じている。

代替となる新たな副候補は？

フォーリャ紙が報じたところによると、ボルソナロ氏は、すでに３人の側近に、２２年の大統領選にはモウロン氏以外の人物を副候補にして臨む意向だと話しているという。

大統領が語ったところによると、モウロン氏を副候補に選んだのは軍の協力を得たいがためだったが、「モウロン氏との間で、完璧な信頼関係を築けなかった」と語っているという。

また、２０１８年にモウロン氏を副候補に指名したこと自体に関しても、「苦肉の策だった」ことを明かしているという。ボルソナロ氏は大統領選の際に副候補の選出に手間取り、アウグスト・エレーノ現大統領府安全保障室（ＧＳＩ）長官やジャナイーナ・パスコアル現聖州議に副候補の打診をしたが、断られていた。

モウロン氏
（Romerio Cunha）

さらに、大統領の側近たちによると、上院議員や下院議員の一間では、「モウロン氏の方が大統領にふさわしい」との評価があることも、大統領の神経を逆なでしていると言われている。大統領就任以降、ボルソナロ氏が反民主主義的な発言を行った時などは、モウロン氏が民主主義の大切さをマスコミに語る場面もしばしば見られていた。

政治的意見に関しても両者は食い違うことが珍しくないが、大統領はその中でも、今年３月にモウロン氏が中国と、インターネットでの５Ｇのワイファイの供給に関する会議を行っていたことや、一時は表に出なくなっていたモウロン氏が、最近は連日のようにメディアと語るようになっていることも意に沿っていないようだ。

大統領がモウロン氏以外を副候補に選ぶつもりであることは軍部にも伝わっており、軍関係者らが、モウロン氏が副大統領に相応しい形で、中央政権から離れる方法を模索しているという。

彼らが考えているのは、モウロン氏が南大河州の知事選か上議選に出馬することだ。南大河州は同氏が陸軍の南部司令部を指揮した場所で、ボルソナロ政権の支持率も高い。

２２年の副候補に関して、ボルソナロ氏は「セントロン系政党の福音派」を希望しているという。

モウロン氏が所属している労働者刷新党（ＰＲＴＢ）は上院、下院に議員が１人もおらず、政局運営が不利になる原因ともなっている。

その場合、最有力とされているのは、自身の長男フラヴィオ氏と次男カルロス氏が所属している共和者（ＲＰ）だという。同党所属政治家で福音派と言えばマルコ・フェリシアーノ下議が有名だが、関係者たちは、「その可能性は極めて低い」と見ているという。

また、大統領は、現政権の女性官僚と組むことにも好感を示していると言われている。その場合は、ダマレス・アウヴェス人権相、テレーザ・クリスチーナ農相が副候補となる可能性があるが、テレーザ氏の場合は、所属の民主党（ＤＥＭ）がルイス・エンリケ・マンデッタ元保健相の大統領選出馬を視野に入れていることから、連立を組むのは難しいと見られている。

失業率

９月第４週は１４・４％に

コロナの影響調査では最高

地理統計院（ＩＢＧＥ）が１６日、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する調査で、９月第４週は失業者数が急増し、失業率も同調査では過去最高の１４・４％に高まったと発表したと１６～１８日付伯字紙、サイトが報じた。

９月第３週の失業率は１３・７％だったが、６４万７千人が解雇された事もあり、求職者は１週間で７２万６千人増え、１４００万人に達した。

緊急支援金減額の影響如実に

パンデミックに伴う外出自粛が始まった３月以降は雇用維持のための一時帰休や時短・減給などの措置も導入されたが、経済活動縮小で、非正規雇用者を中心とした解雇増は防ぎきれなかった。

５月以降は経済活動も徐々に再開し始めたが、経済活動が縮小し、外出規制も厳しかった時は、失業後も求職を諦め、政府の緊急支援金だけで生活する人が増えた。コロナ禍では仕事も求職もしていなかった人の数が新記録を更新していたが、失業者は職を探しているが就業できない人を指すため、失職したが職を探していない人は失業者とは数えない。

だが、外出規制が徐々に緩み、経済活動が少しずつ活性化して来た事、一時はマイナス９％台と言われた国内総生産（ＧＤＰ）が回復の兆しを見せ始めた事、さらに、緊急支援金の額が半減し、年内には終わる事が明らかにされた事で、職を探す人が増えている。

６０万人余りが解雇され、失業者も増えたが、就業者数は増加傾向にある事は、求職者が増えた事を意味する。

失業者が特に増えたのは北部と北東部で、バイア州の失業率は１９・９％、セルジッペ州の失業率は１９・８％だ。当然、緊急支援金受給者も多く、誰かが支援金をもらっているという家庭は５２・２～７１・４％に及ぶ。緊急支援金受給で所得が増えた人達が、食料品などの必需品や電気電子製品の購入、住居のリフォームなどに財を投じていた事は、これら二つの地方の小売販売が４～８月に５１％伸びた事でもわかる。

両地方では１６州中１５州で、４～８月の小売販売がパンデミック前の水準を超えているが、中西部や南部、南東部での伸びは２７％に止まっている。誰かが緊急支援金を受け取っている家庭の割合は、南部２４・８～３６・８％、南東部３４・８～４５・３％、中西部３３・６～４５・１％となっている。

ＩＢＧＥでは、北東部などで失業率が高まっている事を認めつつ、９月第３週から第４週にかけての伸びは季節性も考慮すれば誤差の範囲内との見方も示す。また、今後はブラックフライデーやクリスマス商戦もあるため、北部や北東部でも、サービス業を中心に雇用が増えるとも予測。ただし、一時的な雇用増は非正規雇用の増加に繋がる可能性も強い。

９月第４週の非正規雇用率は３３・６％から３４・２％に上昇。解雇された人は正規雇用者が多かったようだ。

仕事が見つからず、頭を抱え込む労働者
（１６日付 Terra サイトの記事の一部）

ボリビア大統領選

左派・アルセ氏の当選確実

極右勢力による動乱の１年後

１８日に行われたボリビアの大統領選は、正式な開票結果が出ていないものの、出口調査の段階で、左派候補のルイス・アルセ氏が一次投票で圧勝と伝えられ、対立候補らが敗北を認める事態となっている。１９日付伯字紙サイトが報じている。

今回の大統領選は、昨年１１月に行われた大統領選で、選挙高裁が「エヴォ・モラレス氏が一次投票で４選を決めた」と発表したところ、エヴォ陣営の不正を強く疑う国民が荒れて暴動を起こし、エヴォ氏が亡命する騒ぎとなったことを受けた再選挙だ。昨年の大統領選とその後の暴動は国際的な問題となった上、極右支持者たちがエヴォ氏の肉親や知人の家を焼いたり、エヴォ氏の票田となっていた先住民たちへの暴力行為まで起きたりして、問題視された。

同国はその後、ヘアニネ・アニェス上院議員を大統領代行として行政を行い、２０年に正式な大統領選を行うことを約束していた。この選挙では保守派のアニェス氏も正式な大統領になるべく出馬を志していたが、同氏の政治手腕は国民の支持を得ることができず、保守派同士の票が割れるのを避ける意味で出馬を断念していた。

大統領選は、エヴォ氏所属の左派政党「社会運動」の候補のアルセ氏と、１９年の選挙で次点だった中道右派のカルロス・メサ氏の争いとなったが、１８日の選挙当日に複数の世論調査機関が行った出口調査で、アルセ氏が、５２％の支持を獲得していたことが報じられた。同国の選挙では、得票４０％で、２位以下に１０ポイント以上の差があれば、一次投票での勝利が認められる。

こうしたこともあり、開票１６％の時点でアニェス大統領代行がアルセ氏の当選を認め、数時間後に、メサ氏も敗北を認めた。

南米では昨年後半、右派政権の政治に反抗した民衆デモがチリやコロンビア、エクアドルで起こり、アルゼンチンの大統領選で左派のフェルナンデス氏が当選するなど左派巻き返しの機運が強まっていた。また、ボリビアでは長期左派政権に対する極右勢力からの動乱が起こっていたが、結局、１年で左派政権が戻ることになりそうだ。チリでは１８日、長期化した歴史的デモ勃発１周年を記念したデモが行われた。デモの大半は平和裏に行われたが、一部の参加者が暴力行為に出たため、５８０人の逮捕者が出た。

１８日のアルセ氏（Twitter）

コロナワクチン

義務化めぐり意見対立

ドリア牽制するボルソナロ

新型コロナウイルスに対するワクチン接種をめぐり、ジョアン・ドリア聖州知事とボルソナロ大統領とが、「義務化するか否か」について、全く異なる主張をし合っていると、１９日付伯字サイトが報じている。

事の発端は１６日、ドリア知事がコロナのワクチンに関して「医者に処方禁止を言い渡されているような人でない限り、ワクチンの接種は義務だ」と語ったことにある。同知事は、聖市ブタンタン研究所の援助の下で治験を行っている中国製のワクチン「コロナバック」の結果が良いことから、同ワクチンの接種を州民に義務づけたいと考えている。

それに対し、ボルソナロ大統領は１６日に「ワクチン接種は義務ではない」とネットで発言。１９日も大統領官邸を出る際、記者団に関して「１９７５年に制定された全国ワクチン・プログラムでは流行病も含んでいるが、義務化するかどうか決めるのは保健省。そして、（パズエロ）保健相自身が義務化しないと言っている」として重ねて否定した。

ボルソナロ大統領や保健省は、ドリア知事の評価が上がることを嫌って中国製ワクチンを否定し、英国オックスフォード大学のワクチンだけを推奨したがっている。

東西南北

先週、伯国の話題を独占したのはシコ・ロドリゲス上議だった。やはり、「パンツに賄賂と思しき金を隠していた」という珍事は相当なインパクトがあったため、ネット上では「これぞ、本当に汚い金」などをはじめ、多様なジョークが生まれていた。とりわけ、ボルソナロ大統領が「わが政権には汚職がない」と言い切った１週間後に、上院の政府副リーダーがこの失態をさらしたことも絶妙なタイミングだった。さらに言うと、ロドリゲス上議が本拠地とするロライマ州ボア・ヴィスタは、ボルソナロ政権に対する支持率が６６％と、全国で群を抜いて高い地域でもあったことも最近発表されたばかりだ。同上議は政府副リーダーを辞したが、最高裁は同上議の議席はく奪を審理中。同州都市民の心境やいかに。

◎

先週話題を呼んだ人物といえば、サッカーの元代表（セレソン）のストライカー、ロビーニョもいる。彼はイタリアでの強姦容疑で告発された際の録音の内容が公になって社会的批判が高まり、結んだばかりのサントスとの契約が破談となった。だが、その直後の取材で「自分は人種差別者、女性差別者だとしてマスコミに批判されるボルソナロ大統領のようだ」と語り、「ネイマールだって僕が無実だと支持してくれている」と語った。一連の発言で、法的な意味の「強姦」の意味も知らないことも暴露されたが、自己弁護の表現としてはいかがなものか。

◎

聖市市長選の世論調査で、リードを狭められていることが先週末報じられたセルソ・ルソマノ氏。同氏は先週も、「路上生活者は風呂に入らないから、コロナに対しての抵抗力が強い」など、貧困層の有権者の機嫌を損ねそうな危うい言動を行っている。投票まで１カ月を切ったが、まだまだ選挙の行方はわからない。

世界銀行

ラ米の経済回復遅れると予想

伯国のリクスはやや低め？

世界銀行が、ラ米・カリブ海諸国はコロナ禍の影響が大きく、経済活動の回復は遅れるとの見通しを発表したと１８日付Ｇ１サイトが報じた。

ラ米・カリブ海経済委員会（Cepal）によると、今年のラ米・カリブ海地区の国内総生産（ＧＤＰ）の成長率はマイナス７・９％で、過去最大の経済危機だという。

ラ米・カリブ海の経済が専門のアブイジチ・スリア氏によると、チリやウルグアイなどは回復が早いが、様々な問題を抱えている国は、経済の回復も２３年か２４年に持ち越されるという。

コロナ禍が終息しておらず、予防接種実用化の時期も不明な中、各国の経済活動が回復する時期の予測は困難だ。多くの専門家が使うのはＧＤＰで、ラ米諸国のＧＤＰは２１年から成長に転じ始めると見られているが、地区全体のＧＤＰがパンデミック前の水準に戻るのは早くても２３年と見られている。

スリア氏によると、伯国の緊急支援金支給やチリやコロンビアによる中銀による公的債権購入といった政策は、経済活動再開のために役立つ。ただ、コロナ禍が長引き、これらの政策を継続する必要が生じているが、それをいつまで維持できるか、または維持すべきかは誰にも予測できない。

現在は、短期支援として採用された政策を中長期的支援として見直す必要が生じている上、ＧＤＰの落ち込みや公的債務の大きな国は、政策継続が困難だからだ。

アナリスト達は、伯国は公的債務がＧＤＰに占める比率が９１・５％でラ米で２番目に高く、９月に出た経済省の予測での財政赤字も８６１０億レアルと大きいが、ＧＤＰの落ち込みは５・４％と比較的小さい事などから、他国よりもリスクは小さいと見ている。

PDF版紙面
スマホ・PCで新聞を読もう
好評配信中

□緊急時の連絡先□

●サンパウロ日伯援護協会「本部事務局」
TEL: (11) 3274-6483
朝８時から午後５時まで。日本語対応可。相談内容に応じて、福祉士などに回す。

●サンタクルス病院
「新型コロナウイルス感染症の緊急外来受診のためのコールセンター」
TEL: (11) 97572-4602　日本語対応、24時間。

●万が一、医療機関等に隔離され、日本政府の援護が必要な場合の在外公館の連絡先リスト

⇒在ブラジル大使館（連邦区、ゴイアス州、トカンチンス州）
代表電話 (61) 3442-4200 ／ 夜間連絡先：ブラジル国内から（地域番号なし）4003-2142
サイト： https://www.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒在サンパウロ総領事館（サンパウロ州、マト・グロッソ州、マト・グロッソ・ド・スール州、三角ミナス地域）
代表電話 (11) 3254-0100　サイト：https://www.sp.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒在クリチバ総領事館（パラナ州、サンタ・カタリーナ州）
代表電話 (41) 3322-4919　サイト：https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒在ベレン領事事務所（パラ州、マラニョン州、アマパ州、ピアウイ州）
代表電話 (91) 3249-3344　サイト：https://www.belem.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒在リオデジャネイロ総領事館（リオデジャネイロ州、エスピリト・サント州、ミナス・ジェライス州）
代表電話：(41) 3322-4919 ／ 受付時間外及び休館日：ブラジル国内から (0) 21-3461-9595
サイト：https://www.rio.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒在ポルトアレグレ領事事務所（リオ・グランデ・ド・スール州）
代表電話：(51) 3334-1299　サイト：https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000040.html

⇒在マナウス総領事館（アマゾナス州、ロンドニア州、ロライマ州、アクレ州）
代表電話：(92) 3232-2000　サイト：https://www.manaus.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

⇒在レシフェ総領事館（セアラー州、リオ・グランデ・ド・ノルテ州、セルジッペ州、ペルナンブコ州、アラゴアス州、バイア州、パライバ州）
代表電話：(81) 3049-8300　サイト：https://www.recife.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

本門佛立宗　茨木日水上人50回忌決起大会

ブラジル仏教初祖の日制定祝う
11月にリンス大宣寺で法要

聖市ヴィラ・マリアーナ区のブラジル本門佛立宗（HBS）の中央寺院日教寺（高崎日現ブラジル教区長）は18日、茨木日水上人50回忌決起大会と、笠戸丸移民である同上人が「僧侶」としてブラジル上陸した6月18日を「ブラジル仏教初祖の日」（Dia do Padroeiro do Budismo no Brasil）に、サンパウロ市議会が制定した公認式を同寺で行った。

同寺会場には野村アウレリオ市議を筆頭に信者の菊地義治氏、植松セルジオ日教寺信徒総代、東原エジソンHBS理事長が出席してメッセージを送ると共に、ブラジル日本文化福祉協会の石川レナト会長や、桑名良輔在聖総領事からもオンラインでメッセージが送られた。笠戸丸移民を送り出した水野龍の息子、龍三郎氏やブラジル仏教連合会の塚本智光会長、元連邦警察署長の池田マリオ氏らもオンラインで参加した。

この決起大会は、来る11月1日に聖州リンス市大宣寺にて予定している、ブラジル本門佛立宗を開教した茨木日水上人（茨木現樹師）の50回忌という大きな節目に向けて、機運を盛り上げるためのもの。

公認状を渡す野村市議

茨木日水上人の胸像

1908年6月18日、当時22歳だった茨木日水上人は笠戸丸移民の一人としてサントスに上陸した。その際、下船者名簿（サンパウロ州移民史料館所蔵）の職業欄に「僧侶」と記していた。これが仏教のブラジル伝来の証拠となり、「ブラジル仏教初祖の日」としてサンパウロ市議会から決議された件の公認式が執り行われた。この称号は野村アウレリオ市議が法案を提出して働きかけ、市議会で可決されたもの。東原エジソン理事長と高崎教区長は「茨木上人がブラジル仏教初祖として認められた。野村市議の献身的な働きに心から感謝したい」と感謝の言葉をのべ、野村氏に随喜状を手渡した。

18日は野村市議本人から「パドロエイロ」公認状が手渡された。同市議は式典で茨木上人の業績を読み上げ、「ブラジルへの多大なる貢献をした。その犠牲多き生涯に対し、サンパウロ市議会はその業績に対して敬意を示すために、この決議をした。ブラジルにおける仏教の一番大事な日となりました」と語った。

当日は新型コロナウイルス感染防止のため、会場は少人数のみが集まり、動画アプリユーチューブで決起大会の様子が、全伯支院11カ寺に中継された。

茨木日水上人50回忌法要は、リンス市大宣寺にて11月1日ブラジル時間8時（日本時間同日20時）行われ、ユーチューブで中継される。

当日は、京都の本門佛立宗本山とも接続される。18日の式典の様子は以下にて視聴可能。（youtu.be/xoEIK-CxFJ-I）

在日ブラジル人が21万人に
2016年から再び増加傾向

7月31日に公表された法務省の在留外国人統計によれば、昨年12月時点で在留ブラジル人数が21万1677人に増えていることがわかった。

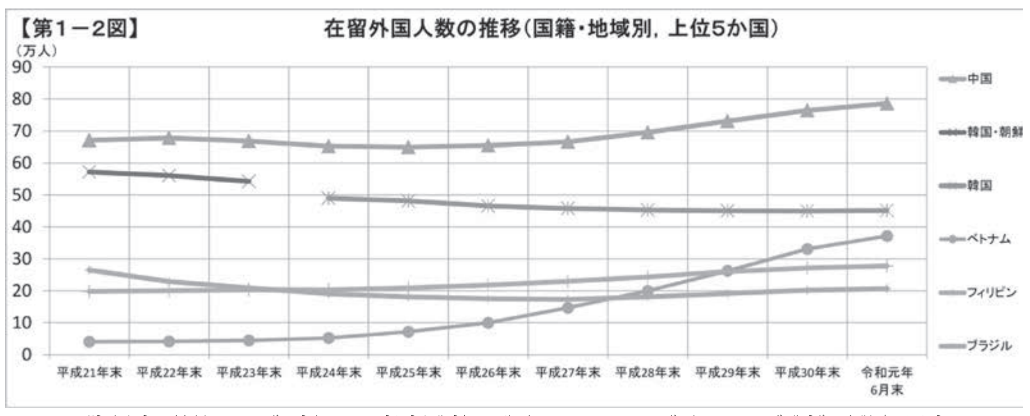
在留するブラジル人のうち11万2440人の在留資格が「永住者」となっており、2018年の11万2934人から若干の減少となった。

「定住者」資格は7万3536人、次いで「日本人の配偶者」資格は1万8427人、「永住者の配偶者」資格が4249人という内訳となっており、いずれも前年比で増加傾向となっている。

とはいえ、ブラジル人の増加率は他国人よりもゆるやかな増加率で、在留外国人の国籍別の総数では5番目。外国人在留者総数は無国籍者も含めて293万3137人となり過去最高を更新した。1位は中国人、2位は韓国人、3位はベトナム人、4位はフィリピン人だ。

近年急激に増加しているベトナムは、2016年には在留ブラジル人を超え、現在3番目の37万1755人にまで増えている。

都道府県別で在留ブラジル人が最も多いのは引き続き愛知県が6万2508人で最も多い。次いで静岡県が3万1387人、三重県が1万3981人、群馬県が1万3200人、岐阜県が1万2494人の順となっている。



法務省が昨年の10月公開した公表資料内に掲載されている6月末までの在留外国人推移表

南東軍司令部で鯉放流式
大将が異例の日本語スピーチ

リベルダーデ友好協会（平崎靖之会長）は10月7日、錦鯉12匹の放生式をサンパウロ市内のブラジル陸軍南東軍司令部（エドゥアルド・アントニオ・フェルナンデス総司令官）で行った。

桑名良輔在サンパウロ日本国総領事や日本大使館の防衛駐在官として新たに赴任した金井茂樹一等陸佐（44、熊本県出身）も出席し、普段はカンピーナスを管轄する第11歩兵旅団を率いるエジソン・マサユキ・ヒロシ陸軍少将も駆けつけた。

式典ではフェルナンデス総司令官が、異例なことに日本語スピーチに挑戦した。鯉が目出度い「出世魚」である事や、平和の象徴である事に触れて祝辞を述べ「ようこそおいで下さいました」と歓迎し、友好を示した。その原案は、広島文化センターの村上佳和副会長が作成した。

錦鯉はブラジル錦鯉愛好会の伊藤誠施会長が寄贈したもので、以前から錦鯉の放生式は「伯陸軍と日系社会の友好の証」として開催され、今回で4回目を数える。

日系団体からはリベルダーデ文化福祉協会（ACAL）の池崎博文会長、ブラジル日本都道府県人会連合会・市川利雄会長、下本八郎元サンパウロ州議、ブラジル熊本県文化交流協会・清原健児会長らも参加した。

ヒロセ少将、桑名総領事、フェルナンデス陸軍司令官、金井茂樹一等陸佐

■人探し■
上村文子さん

千葉県に住む長谷川豊治さんが、上村文子さんの連絡先を探している。

長谷川さんによると、上村さんは74歳位の女性で聖市ジャバクアラ区に住んでいた。折り紙を習っており、日本に住む長谷川さんも送ってもらったことがあると言う。

長谷川さんがブラジルに居たときに知り合い、日本に帰国後も連絡をとりあっていた。だが長谷川さんが現在住む千葉県中央区に引越しをした際に電話番号も変わり、以後連絡が取れなくなったという。

「心当たりある方は手紙で連絡下さい」とのこと。本紙編集部に連絡をくれれば、長谷川さんの住所を伝える。心あたりがある人は編集部（11・3340・6060、天野）まで連絡を。

ブラジル励ますセッション
日本のカルナバケーション

【共同】ラテン系バンド「カルナバケーション」が東京都内で「ブラジルにエールを」をテーマにライブを開催した。同国の音楽にインスピレーションを受けてきた彼らはアマゾンの大規模火災などに心を痛め、元気づけようと、現地のミュージシャンとリモートでセッションを行った。

カルナは2015年結成で、ブラジル音楽にファンクやロックを融合させたポップな曲調が特徴だ。6月にブラジル公演を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で断念していた。

この日の公演には、バンドリーダーでボーカルの村田匠が敬愛する人気歌手ガブリエル・モウラが現地から出演。ステージのスクリーンに映し出された本人の歌唱動画に合わせて演奏する形で、2人が共作した2曲を披露。火災を受けて作った「オブリガード　アマゾニア」は“地球の肺”と呼ばれるアマゾンへの感謝を歌った。

テレビ電話を使ったトークで、モウラはコロナ感染者も多いブラジルの厳しい現状を説明する一方、「ぜひこちらに来て一緒にツアーをしましょう」とメンバーに呼び掛けた。村田は「また曲を作ろうぜ」と励ますように言葉を贈った。

ブラジル東京海上は
安心と安全の提供を
通じて、豊かで
快適な社会生活と
経済の発展に
貢献します。
TOKIO MARINE SEGURADORA
NOSSA TRANSPARÊNCIA, SUA CONFIANÇA

BANCO SUMITOMO MITSUI BRASILEIRO S.A.
SMBC
みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6％ www.team-6.jp

（59）

ただ、日本人移民の場合は、文化性や言語、あるいは人種というものの隔たりが大きなものであった分、その障害物を超えるのに、それなりの時間がかかり、それなりの苦難が伴ったことは事実であろう。

もっとも、ブラジル人であるマルコスにとっては、その辺りのことは直接見えるものでもなく、その内面を感じ取ることも不可能であった。日本人の持つ特殊性という点には気付いても、それがどこから来るものであるかということまでは想像できない。そこまで理解できるようになるには、彼は日本語をさらに勉強するだけでなく、もっと日本人との付き合いをも深めなければならないことになる。

ただ、少々厄介なのは、見かけ上は何でもない日本人移民の社会だが、そこには目に見えない壁のようなものが存在するという点であった。マルコスがこのゴンザーガ区の日本人たちと付き合って、いわゆる親しい友人であるアミーゴとなっても、そこでは、彼はいつまでもガイジンという枠からは出られないというような雰囲気が常につきまとった。それは特に、男女の間の問題に強く表れるという傾向を持っていた。そして、当然それは、マルコスとアヤとの付き合いにも微妙な影響を与えることにもなっていった。

無論、アヤはそのような意識を持つタイプではないから、まったく問題ないのだが、周りの者たちが二人の付き合いに対して抵抗を示すという空気が生まれつつあった。マルコスはアヤに対して、一度も個人的な心情を明かしたことはないし、間接的にせよそのような話題を口にしたことはない。アヤの方も今まで、そういう気配すら見せたことがない。

むしろこの場合、マルコスの方が少々期待外れという感が強く、その辺りを確認したいという思いが強いのだが、アヤは一向にそれに気付いた素振りは見せない。あるいは彼女は、そういう日本人社会のことをいつも念頭に置いてマルコスと交際しているのかもしれない。不必要なうわさを立てられないためにも、一種の防御手段というふうに考えられないでもない。

しかし、アヤは彼女の方から一切、そのような話に触れようとはしなかった。その点に関しては、アヤの方がマルコスより用心深く、世の中のことがもっと分かっているということなのかもしれなかった。

とにかく、マルコスとアヤのデートは続いていったが、少なくとも表面上はそのことが、恋愛感情に昇華していく気配を見せることはなかった。もっとも、そうだからといって、マルコスのアヤに対する慕情が弱まっていくということにはならなかったから、彼にとってそれは、酷な状況とさえ言えたであろう。

そのような感情を抑えつつ、マルコスはアヤとのデートを重ねていったのだが、しかしそれは決して無駄に時間を消費するということではなかった。彼の中にある感情は凍結するようにして心の奥に仕舞い込み、話題をもっと現実的な問題や、これからの人生に関する問題に焦点を合わせていった。

そういう形で、アヤの持っている考え方を知ることも、これはこれで結構、興奮を覚えるものでもあったし、ある意味でそれは、アヤの内面の一部に入り込むことに通じるものでもあった。そして、そのことがマルコスにとって、大きな満足感を得られる結果ともなっていった。

キューバ紀行 ③ 地上最後の社会主義国家

サンジョゼ・ドス・カンポス　小林音吉

ホテルではパナマ人・セントルシア人・エクワドール人・ベネズエラ人・スペインのバスク人等と知り合いました。パナマからの旅行者はパナマの経済を牛耳っているのは人口の１５％の中国人だと面白くなさそうな顔で言ってました。

ベネズエラ人は警察の事務方で、国が崩壊寸前でも海外に亡命など全く考えていないそうです。その位自分達の故郷に愛着があると言ってました。バスクのギジェルモさんはいつか必ずスペインから独立すると息巻いていました。

バスク語はヨーロッパのどの言語とも関連性がない言語で、一寸日本語にその成り立ちが似通っているようです。ドイツ・オランダからの男性グループは完全な買春目的でキューバに来ています。それも年配者が圧倒的に多かったのが印象的でした。まあお盛んでなによりです…？

事前に旅行社からキューバ事情を聴き、一寸お世話になった人達に渡すおみやげについてアドバイスを戴きました。慢性的に物が不足しているキューバに、日用品例えば化粧せっけん・歯ブラシ・歯磨き・髭そり・タオル・マニキュア・ボールペン・消しゴムなどの小包を数個作り持って行きました。

渡した相手からは思った以上に喜ばれたので、こちらまで嬉しくなりました。もしブラジルで同じことをしたらバカにするなと怒られるかもしれませんが・・・。

今回のキューバ旅行でも多くのことを学ばせて戴きました。地上最後の社会主義国家の現実を垣間見て、欠点の目立ってきている自由民主主義の方がまだ社会主義よりはるかにましであるという気持ちになりました。

統制や厳しい規制をしなければ成り立っていかない社会に生まれてこなかった幸運に感謝すべきと思っています。

日本の恩恵にあづかりながら、反日的言・行動を取っている社民党・共産党・在日の連中は総て知っていてごねている悪質な連中と断言出来ます。

少なくとも共産主義・社会主義・独裁主義の体制下では人々は安心して生活が出来ないどころか、絶対に幸せになれないと言うことがはっきりと解りました。

半世紀以上ここブラジルで生活し生かされてきたことを今さらながら感謝の気持ちで一杯になりながらキューバを後にしてサンパウロに帰りました。

ラッキィーボーイとあとかた…

パラナグア市　増田二郎

見合い写真を見せられました。クリチーバのすてきな女性です。大学生が列をなして順番を待っているような女性です。

家族は爺ちゃん婆ちゃんを大事にし、会話は日本語です。無意識に捜している母の面影にも似て居ます。一目惚れしてしまいました。負けるわけにはいきません。彼女より家族に応援していただき、結婚することが出来ました。あれから四十八年経ちました。

１９６８年、親代わりの叔父に、結婚式費用一切、その上、新婚旅行費までプレゼントしていただき四年、長女長男を授かり、幸せいっぱいが続いていた僕に、メガトン級の好運が舞い込みました。

その叔父が、店を一軒持たす！と言ってくれたのです。

思い起こせば、六十七年前の１９５３年、四人家族（母、姉、弟）だった僕たちを、呼び寄せ移民として、骨折ってくれたのは、母方の祖父でした。

あの頃の叔父はまだ、結婚二年目と若く、目がパッチリと色白で、生後五ヶ月の、可愛い長女を抱いた叔母と、祖父母、さらに、八十才を越えていた曾祖母、と言う大家族で、チエテ移住地の農場に迎えてくれたのでした。

大きな竹やぶの側には、数十匹の豚が飼われていて、其の小屋の周りを、放し飼いのにわとりが数十羽、その卵は明日から、お前たちが拾い集めるのだよ、と言われ、弟と二人して、歓声を上げたことなど、今でも思い出すことができます。

第二次大戦後、世界中の要求に答え、アメリカを始め、ブラジルやエジプトなど多数の国々が、綿花栽培に力を注いでいました。

その波に祖父一家も乗り、トラクターを使って広面積に綿を植え、チエテ移住地の成功者、と言われていました。

でも、その三年後には隣家が、牧場を広げたいから、農場を譲ってくれ、との商談を受け入れ、二十年住み慣れた移住地を離れ、新天地を、コーヒー輸出港として栄えていた、パラナ州、パラナグア市に移したのでした。

僕はと言うと、二年前、奥地の暑さと脂っこい食べ物にやられ、農業を諦め町へ出ていたので、財布の紐を譲り受けていた叔父も、その二年後、いい潮時と思ったのか、農業から商業へと舵を切ったのでした。

もともと、高等商業中退で渡伯していた叔父です。二年間、邦人バザールで見習い小僧をしていた僕を呼び戻し、二人してバザール開店、と打って出ました。

今まで眠っていたような町でしたが、其の頃、コーヒー輸出港として活気し始め、さらに、町はライバル店も少なかったのと、正札現金偽りなし、のモットーが当たり、店は繁盛し続ずけたので、叔父は、商売でも成功者だ、と親戚達から一目置かれていました。

其の叔父が１９７２年、十二年前、義兄に借りてやったポントが空くので、「そこにお前の店を開ける！」と言ってくれたのです。

十六年間、店が繁盛し続ずけるよう、頑張った甲斐がありました。これからは、内助の功として、ミシンを踏み続ずけてきた妻や、子どもたちの為に頑張れるのだと、勇気百倍、やる気満々の三十三歳でした。

あれから四十八年経ち、今年の誕生日で八十一歳になったロートルですが、二月頃始まった、コロナ風邪と言う旋風が来るまでは、日会を中心に、ゲートにカラオケ、日語学校ボランテア教師などと、八面六臂の忙しさだったのに、突然のパンデミック到来で全てがストップ、日がな一日テレビとビデオの生活を余儀なくされています。

「一体俺が何をしたと言うのだ！」と怒鳴りたくもなりますが、「誰に向かって！」で行き詰まりました。中国が、アメリカが、日本が、あるいはブラジルが、と今世界中の国々が、予防注射―ワクチン製造に、しのぎを削っています。

それで、この年末か、来年の二、三月ごろには出来るでしょう。だから、それまでの辛抱だな、と思っている次第です。

もちろん、息子たちから、パパ外出禁止だよ！とくどいくらい言われたのを含め、高齢者は、人混みを避けましょう！は肝に銘じているわけです。

先日、妻と会館の前を通ってみました。週三回、ゲートボールの集まり、と一回のカラオケ練習、週二日、朝、昼、晩の日語授業などで、にぎわっていた我らの会館はこの半年、閉ざされたままです。

半年前の賑わいは跡形も無く、閑散としていて、思わず涙をかみ締め、妻に悟られぬよう飲み込みました。

手の乾燥機

サンパウロ　鎌谷　昭

乾燥機にもいろんな種類があるけれど、最近は公衆トイレに設置された紙タオルにとって代わる乾燥機に関心がある。

トイレ使用後は手を洗い、そのあと紙タオルがあればそれで事足りる。問題はその紙タオル、無くなる寸前にどうやって補給するのか、それがうまくできない。

言葉では、なくなる前に補給する、で十分だが実際にはそれがいつなのか係りの者にはわからない。それを上手にできる気の利いた従業員は多分安月給では雇えないのだろう。上司の立場からすると、いつも紙タオルが切れている、と小言を聞くのは我慢しにくい。

一度設置すれば補給の必要がない、そんな装置があれば少々の割高は我慢しよう、という考えからか最近はあちらこちらに乾燥機が設置され出したようだ。

メトロの駅とバス・ターミナルが連結している所は、公衆便所があって、この乾燥機がつけてある。たったの一台、設置されているときはいつも故障している。乾燥機なら何でもＯＫとよく吟味せずに取り付けられたのか故障が多いだけではなく、手をかざしても出る風に力がなく、ヒーターは生ぬるい。乾くのに時間がかかる。年金生活者には一分を争い急ぎやることは少ない。何分で手は乾くのか、と計ってみた。

同じ製造元でもこれは不良品ではないのか、と思えるほど馬力の弱いものがある。音はするが出る風はよわく、温度は低い。何を基準に合格品なのか分からない。計り調べると３０秒を基準に作られているようである。風の弱い製品は少なくとも４０秒かかり、手をかざしたまま、まだ乾かないのか？という気持ちになる。

もう１５年前の話しだがカナダ空港のトイレに、この種の乾燥機が腰の高さに設置されていた。まるでトースターにパンを入れるように濡れた手を入れる。いきなり猛烈な突風が吹きつけ水分を吹き飛ばす。物珍しさも手伝って、驚いているうちに両手はアッという間に乾いてしまった。あの時の驚きは強烈でブラジルではまだ高価なのかと思いつつ、後ろに人が来ないときはのんびりムードでぬるめの温度に我慢し、手をかざしている。

ショッピングのトイレにはこのジャット式乾燥機が据えてある。早い。２０秒が既定の時間なのか、それに２台あると気持ちがいい。前で人がモタモタしていると乾かさずにトイレをでる嫌な気分はしなくて済む。この手の同じ乾燥機、公立のメルカードで発見した。以前は有料が無料になり更にこの新兵器のサービス、一体どんな風の吹きまわしなのか？答えをみつけられないでいる。

「枯れすすき」２

スザノ　松野常蔵

この、島袋ご夫妻が結婚七十二年になると言うので大変めでたいお祝いがあった。

家族交際のない私なんか招待される資格もない他人なのだが、おばあちゃんの意向で私と強（つよし、息子）は特別なご招待をもらった。

島袋さんは交際の広い人なので、スザノ市の沖縄県人会館一杯に盛大なフェスタだった。この会館に入ると先づ日本着姿のご婦人の多いのに少なからず驚いた。

私と強は、フェイラをやっているお陰で顔知りの人がたくさんいた。

強は社交家で盛んにおしゃべりしていた。

やがて、島袋ご夫妻が大拍手に迎えられて入場された。

おばあさんは黒い日本着の正装でとても嬉しそう。

おぢいさんは、はおりはかまだが、車椅子に乗っていた。

沖縄県人のこういう場所には、私は初めてだが、友人や知人の代表者たちから祝辞やご夫妻の仲睦まじい経歴の紹介などがあり、その中の一人が大きな声で会場一杯の音量でなんと「枯れすすき」を歌ったのである。

「枯れすすき」は悲しい歌だと思うけれど今日は仲睦ましいご夫妻が枯れすすきになるまで一緒だと言う意味で歌われたのだと思う。声も歌もとてもよくて目頭がうるんできた。

その後で、ごちそうは好きなように皿にとってきてたくさん食べた。

舞台ではカラオケ、沖縄舞踊、太鼓叩きなどが出演して会場を盛り上げていた。

なんと言っても着物姿や沖縄衣装のご婦人たちが会場に多くてなんとも言えない雰囲気が嬉しくて、このようなお祝いの場所に居るだけで私は幸せになってしまった。

私等と向かい合って着物姿の美しいご婦人たちが五人も並んで着席したのだから、これはもう最高である。

最後に島袋ご夫妻や家族にお祝いのあいさつとしてうれしそうなおばあさんと私の写真を強が携帯電話で撮ってくれた。

（続く）

クアレンテーナのピアーダ（その二）

サンパウロ　酒本恵三

前回はクアレンテーナに関するピアーダを紹介しましたが、今回はクアレンテーナの中でささっている読者に笑ってもらうために次のピアーダ集を用意しました。

Ａ）男性用のピアーダ

＊公園を散歩していて奥さんが夫に言った。

「小銭をこの盲の乞食にやりたいの。彼は礼儀正しく『美人の奥さん、小銭をください』と言ったから」。

「彼は『美人の奥さん』と言ったのかい？」

「はい、そう言ったわよ」

「それなら小銭をやりなさい。彼は本当の盲らしいから。

＊年増の女（coroa）が青二才の青年（garotão）に聞いた。

「私のどこが一番好きなの？　天使のようなこの顔？　それとも素晴らしいこの肉体？」

「僕はそのユーモアのセンスが好きです」

＊警察署に入ってから男は自分の家に侵入した盗人に合わせてくれと頼んだ。

「すみません、それは規定に反するのでだめです」とカウンターの向こうにいる警官は説明した。

「あなたはわかっていない」と男は言った。「私が知りたいのはただ一つ、彼がどのように妻を起こさず部屋に入れたかということだ」

Ｂ）女性用のピアーダ

＊女が夫の一番の親友でもある愛人とベッドを共にしている時に電話がなった。

「もしもし」と彼女は言った。「あなたが楽しんでいるのを聞いて喜んでいるわ。電話してくれてありがとう。私も愛しているわ。じゃあね」

「誰だったの」と愛人は聞いた。

「夫よ」と彼女は答えた。「あなたと魚釣りをしてすっかり楽しんでいることを言うために電話してきたの」

＊夫から奥さんへ

「どこか一度も行ったことのない所へ行きたいなあ…そして全然やったことがない新しいことができたら素晴らしいだろうなあ」

「ダーリン、そんなことなら私がajudaしてあげる―奥さんは答えた―なぜ台所に行って食器類を洗わないの？」

Ｃ）一般用のピアーダ

＊ある男が町で道に迷ってうろうろしている一匹の雌羊に出会ったので、警察署に連れて行った。

当番の警察官は言った。

「なぜ動物園に連れていかないのか？」

次の日に同じ警察官が、また男が雌羊を連れて歩いているのを見つけた。

「この雌羊を動物園に連れていくようにと言ったはずだが」

「連れて行きましたよ。しかし今日は一緒に映画館に行きます」

＊夜中に頭巾を被った強盗が立派な服装の男の前に現れ、腹にナイフを突きつけて「金をよこせ」と要求した。立派な服装の男は怒って答えた。

「そんなことは止めろ。私は上院議員だ」

「そういうことなら…」

強盗は答えた

「お金を返してくれ」

＊ある婦人がスイスに旅行し、帰る途中の飛行機の中。彼女は横に座っている神父さんに向かって次のことを頼んだ。

「神父さん、私、ここにある器具、電気脱毛器を買ったのですが、もし空港の税関の取り調べを受けるような事になった時、バッチーナ（長衣）の中に隠してもらえませんか？」

神父は答えた。

「たやすいことですが、今のうちに言っておきます。もしなにか聞かれたら、嘘はつけませんので」婦人はそれでもいいと言ったが、心の中では「誰も神父に何も聞かないように」と祈った。税関では検査官が神父に近づくと言った。

「何か申告することがありますか？」

「頭から腰までは何もありません」と神父は言った。

「それで、それから下は？」ちょっと疑わしい目で検査官は聞いた。

「ああ、下にはですねー。女性用の道具が一つあるだけです。一度も使ってはいませんが…」

検査官は赤面し、笑いながら言った。

「次のお客さん。どうぞこちらへ」

＊あるパン屋さんで。

「このお菓子はいくら？」

「二つでＲ$１・２０です」

「一つではいくら？」

「Ｒ$０・７５です」

「それならもう一つのを持っていきます」

＊ある物理学者がバーに入り、ウイスキーを注文した。バーはがら空きだったので、お客はちびりちびりとウイスキーを飲みながら、バーマンと話を始めた。

「君は知っているかい？この宇宙がどれだけ大きいかを。我らが住む太陽系は銀河系の中を二億五千万年掛けて一周し元の位置に戻ってくるんだ」

そばで黙々と聞くだけのバーマン。物理学者は続ける。

「だから人類もまた戻って同じことをくりかえすんだ。私も二億五千万年後このバーに入ってきてまたウイスキーを注文する。だから今日の分はその時に払うからツケにしてくれたまえ」

「それはいいですけど、今日は、二億五千年前に来た時のツケは払ってください」

＊その夫婦は離婚することを決め、裁判所に行き、裁判官と娘の保護について議論した。

母親は、通常女性がこういうケースで弁解するあらゆる理由を持ち出して、子供は自分が引き取る権利があることを主張した。

彼女は「子供は私のお腹で育ち、９か月後、私のお腹から生まれた」と泣き声で言った。

夫は同意しなかった。裁判官は反対の理由を明白に申し立てるようにと催促した。長い沈黙の後、彼はやっと口を開いた。

「裁判長、私が自動販売機に小銭を入れて飲み物を買うとしたら、出てくる缶は私のものですか、それとも自動販売機のものですか？」

出版物等の誤りと四方山話　７

サンパウロ　長江　南

売笑婦、徴用工、女子挺身隊

誰が発明したか知らないが、慰安婦と言う言葉はなかった。内地や半島から売笑婦が高収入を目指し戦地の遊郭に行った。慰安婦と書くからややこしくなる。韓国兵がベトナムで無茶苦茶したので日本人も同じと思っている。

徴用工も居たが裁判の原告は応募した人らしい。すべてが徴用と書くのは間違い。

女子挺身隊とは工場で働いた女学生の事、挺身隊という名称がまずかった。売笑婦の高い稼ぎ目当ての戦地行や工場への動員もすべて内地の日本人と同じ。敗戦までは台湾、朝鮮半島に住む人と内地に住む人は平等。権利義務、差別なし陸海軍将校、上は将官までいた。仮に内地にいた日本人が同じ訴訟を起こしたらどうなるか。

脱出したゴーン

脱出したゴーンは法を犯したという意識は無かったと考える。昔の会計制度は現金主義で将来の収入予定は計上不要だった、国際交互計算勘定は禁止。役員給料は上限を超える分は利益に加算された。社会保険料は個人負担分の他に会社負担分２０％が課せられた。フリンジベネフィットは必要悪。食費を交際費で落したり、昔は普通郵便やタクシー代は領収書が無かったので水増計上、生きる為にあの手この手を考えた。大昔日本の銀行でも大口預金者へ特利を払う為に郵便代を水増していた。

１９７８年会社法が変わる迄古い大陸式で超インフレの為、価値修正制度が始まる迄、売れば出る固定資産売却益など利益計算書に入るべき収益が当期損益に入っていた為不当な税金を払った。粉飾決算せず真面に税金払う奴（私）は阿呆扱いの文化の国で生まれたレバシリ二世の面目躍如。

昔から問題山積の日産再建の功績、欧米に比し低すぎる役員報酬、逃亡は無理もない。但し（性善説の刑法故に脱出出来た）日本の法律にケチをつけたのは頂けない。

シリア系が１／３と言われたバイロに住んで居た頃、隣近所のマロニッタの人達に世話になり助けられた。仕事でも我が同胞よりもレバノンやイスラエル系の人達に助けられた。

紅緑色盲

赤と緑が別々にあれば区別できる。赤と緑の小さい点で数字を書いた色盲検査図はお手上げ。カラーの絵の中の文章は赤緑と違う色でも組合せによっては読み難い。色盲の私が書いているので間違いない。

長々と小言を並べましたが私も人の子、誤りがあるかも知れません。

菅新首相への思い

高根富士雄

菅義偉氏が新首相になった。彼が私と共通するのは苦学生だったということだ。

私は昔の日記を読み返した。１９６９年学生運動家によって封鎖された大学に見切りをつけて、現金２００ドルとヘルシンキまでの片道切符でシベリア鉄道経由でデンマークのコペンハーゲンにいった。

紆余曲折を経て、ある工場で唯一の外国人として働いていた。そのころユースホステルで知り合った日本人のＭ氏。彼は日本で学生運動をやり、何回か逮捕され、その後パリの大学でストライキを行いフランスを国外追放になったという。

彼は共産主義で理論武装をしていて滔々とまくし立て、私は自分の無知と勉強不足を痛感した。

そして、もし日本に返ったら豚箱行きだから帰るつもりはなく、これからポーランドの大学を受験すると言い、外国の第書くに入ることが重要だと強調した。

ある日、私は日本大使館に行き、北朝鮮関係の雑誌を見つけ、それにはカラー写真が数ページに亘り掲載され「地上の楽園」を歌っていた。

また、ＮＨＫのラジオ放送受信者の中に、ブラジルのミナス州で借地農をしているという兄の記事を偶然に見つけた。

しかし当時私はまさか後年ブラジルへ移住するとは夢にも思わなかった。

Ｍ氏について思うのは、学生運動をしていた学生との共通点は彼らがすねかじりで親などから学費をもらっていたということだ。

私たち、夜学生にはその余裕はなく、友人の中には高校に行けず検定試験で大学に受かり働いて家族を養ったり、親に送金するものさえいた。

元大学教授で神奈川県知事になった長洲一二氏は講義で、自分も夜学ｎ通ったことがあると語っていた。

夜学生は昼は汗水たらして働き、夜は眠い眼をこすりながら授業を受けた。

今、日本の議員は二世・三世が多いが、彼らは親の財産で有名大学に入り、そのあと一流の会社に就職して議員になる物が当たり前のようになっているが、たたき上げの菅首相はそうではない。

国内外ともに問題が山積みであるが、特に中国などのうるさい周辺諸国との外交関係をどう舵取りするのかを見守りたい。

樹海 拡大版

16世紀に南米に来た日本人奴隷とユダヤ教徒

BBCブラジルにセンセーショナルな記事が踊った。

いわく《400年前にポルトガル人によって世界に売られた日本人奴隷の歴史》（9月12日付、アナ・パウラ・ラモス記者）〈www.bbc.com/portuguese/internacional-54120476〉というポルトガル語の記事だ。東京外国語大学のルシオ・デ・ソウザ特任准教授と東京大学史料編纂所の岡美穂子准教授に取材したもの。

冒頭には《1585年、誘拐された8歳の日本人少年は、ポルトガル人商人ルイ・ペレスに奴隷として売られた。豊後国（現在の大分県大分市周辺）で生まれたこの少年は、ペレスが最初に手に入れた5人のアジア系奴隷の一人で、「ガスパル・フェルナンデス」として知られた》とある。

bbc.com/portuguese/internacional-54120476

A história dos japoneses escravizados por portugueses e vendidos pelo mundo mais de 400 anos atrás

Ana Paula Ramos
De Tóquio para BBC News Brasil

12 setembro 2020

ARQUIVO LÚCIO DE SOUSA

Ilustração de portugueses que atuavam no Japão, capitães de barcos de escravos

Em 1585, um menino japonês de oito anos de idade foi raptado e vendido como escravo a Rui Pérez, um comerciante português que atuava em Nagasaki. O menino,

BBCブラジルの記事《400年前にポルトガル人によって世界に売られた日本人奴隷の歴史》

さらに《研究者らによれば、この少年は日本人によって誘拐された。当時、日本人が誘拐してポルトガル人に売る行為は一般的だった。ガルパルは、ペレス家と共に過ごしてポルトガル語とスペイン語を覚え、家族と共にフィリピンのマニラへ連れて行かれ、ペレスはそこで、禁止されていたユダヤ教を密かに信仰していた罪で罰せられた。この商人はメキシコまで連れて行かれ異端審問にかけられ、アカプルコに到着する二日前に亡くなった》と書かれている。

ソウザ准教授はBBC記者に対し「メキシコで1カ月調査し、奴隷たちの史料と毎日数時間向き合い、ようやくその記録が手に入った。これはただ単なる史料ではなく、搾取され、忘れ去られた一人の本物の人生と向き合っているのだと、私には分かっていた」と見つけたときの気持ちを語っている。

16世紀に伯国へ日本人奴隷が来た可能性は？

読者の中には2009年4月の本紙連載《日本人奴隷の謎を追って＝400年前に南米上陸か?!》（www.nikkeyshimbun.jp/2009/090409-61colonia.html）を覚えている人も多いだろう。コラム子が昨年、日本で出版した『移民と日本人』（無明舎出版）にも大幅に加筆訂正したものを再掲載した。

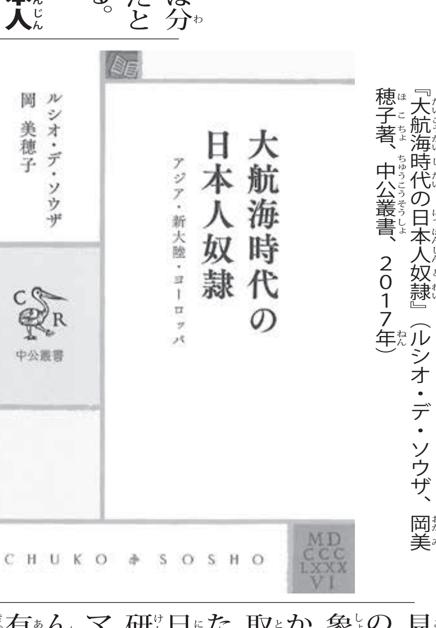
1596年、アルゼンチンのコルドバで、日本人青年フランシスコ・ハポンが奴隷としてディエゴ・ロペスからミゲル・ヘローニモ・デ・ポーラス神父に800ペソで売られたことに関し、日本人青年が「自分は奴隷ではない」との裁判を起こした書類が見つかったとの件だ。

コラム子は同連載を書いた時から「ポルトガル本国に連れてこられた日本人奴隷の一部が、その後にブラジルまで来ていたのでは」「アルゼンチンのフランシスコ・ハポンのような日本人が、ポルトガル商人によってブラジルまで運ばれていたのでは」という可能性を提起していた。

でも、BBC記事の本文には《肉体労働者を必要としていたブラジルで、ポルトガル人による植民が同じ世紀の初めから行われていたが、アジア系奴隷は主に家庭内労働に従事させられていた。リスボンにおいて、たくさんの家族は、所有する日本人奴隷を「舶来品」として見せびらかしていた》とある。

つまり、ルシオ准教授が「ブラジルは農場労働者として黒人奴隷を入れ、ポルトガルには家庭内労働の奴隷として日本人を入れた」から、ブラジルに日本人奴隷が来た可能性はないと考えているのかもしれない。

BBC記事で紹介されている「リスボン在住日本人として最古の記録」は、1573年に日本人女性奴隷ジャシンタ・デ・サー・ブランダオが、日本人男性奴隷ギリェルメ・ブランダオとコンセイソン教会で結婚したという書類だそう。



『大航海時代の日本人奴隷』（ルシオ・デ・ソウザ、岡美穂子著、中公叢書、2017年）

ソウザ准教授らは2017年に『大航海時代の日本人奴隷』（中公叢書）を出版しており、そこに詳しく研究成果が記されている。とても珍しく貴重な本だ。

日本人奴隷に関することは、噂話や断片的なエピソードばかりが先行し、なかなか本格的な研究が見られなかった。"日本史のダークサイド"的な印象が強いテーマなので、なかなか正統派の研究者が取っつきにくい部分があったのかもしれない。でも、日本在住のポルトガル人研究者がその難しいテーマに真っ正面から取り組んでくれたのは、本当に有り難いことだ。この研究は実に貴重だ。

1497年、ポルトガルで衆人環視の中、ユダヤ教徒を火あぶりにする様子（Museum of Portugese Jewish History、Unknown author / Public domain）

新キリスト教徒と大航海時代

『大航海時代の日本人奴隷』では、ソウザ准教授の緻密な調査により、3人の日本人奴隷がメキシコに渡っていた史料が、ポルトガル人に対する異端審問の記録の中に見つかったことが書かれている。日本人奴隷の所有者たるポルトガル人商人には、このような隠れユダヤ教徒がかなり含まれていたようだ。

隠れユダヤ教徒は、一般的に「新キリスト教徒」（cristãos novos）と呼ばれている。スペインやポルトガルのあるイベリア半島は、8世紀にアフリカから襲来したイスラム勢力に征服され、キリスト教国家が再征服する運動「レコンキスタ」を続け、15世紀にようやく取り戻した経緯がある。

だから「古くからのキリスト教徒」（ポ語 cristãos velhos）と区別するために、レコンキスタの後にカトリックに改宗したユダヤ人やムーア人（アフリカ北西部のイスラム教徒）のことを「新キリスト教徒」と呼ぶようになった。単に「コンベルソ（改宗者）」と呼ばれることもある。

このユダヤ人の中には改宗したふりをした「隠れユダヤ教徒」が多くおり、その疑いがかけられた者が「異端審問」にかけられた。

ウィキペディア「新キリスト教徒」項（10月17日参照）には《新キリスト教徒は、改宗後に洗礼名を名乗り、ヘブライ語やアラビア語の氏名を捨てた。ポルトガル王国やスペイン王国の庇護を受けた交易商人や宣教師には、少なからぬ新キリスト教徒（ないしは新キリスト教徒と目されている人々）が含まれている。彼らは大航海時代に活躍しており、スペインとポルトガルによる海外植民の尖兵だった者もいれば、先住民に対する植民者や侵略軍の非人道的な扱いを告発したラス・カサスのような者もいた。日本に南蛮文化をもたらした人たちもそこに含まれている》と書かれている。

つまり、ポルトガルやスペイン本国で暮らしづらくなった「隠れユダヤ教徒」らが大航海時代に船に乗って商人となって活躍していた。

亜国日本人青年の所有者も新キリスト教徒

振り返って、コラム子の連載《日本人奴隷の謎を追って》で主題にした、1596年にアルゼンチンで奴隷売買された日本人青年の所有者も「新キリスト教徒」だった可能性が高い。

この件を最初に詳しく書いたアルゼンチン移民の大城徹三氏は著書『コルドバ』で、「さてフランシスコ・ハポンという日本青年は、当時日本との貿易が頻繁に行われていた南蛮人（ポルトガル人）によって連れられてきたことが濃厚に示されている。また正式なスペインの航路を通らず、ブエノス・アイレス港に入ってきたと推測できる。ということはスペイン国法に照らし、奴隷に処せられる条件にならなかった」（15頁）と書いている。

大城氏が"奴隷商人"と表現するポルトガル人商人の名は「ディエゴ・ロッペス・デ・リスボア」（Diego Lópes de Lisboa）。調べてみると、ディエゴはかなりの有名人だった。

スペインでは1478年に異端審問が開始され、1492年にはユダヤ教徒が追放されるにいたった。それに続いてポルトガルでも1497年に強制改宗令、1536年に異端審問が始まり、新キリスト教徒が急増することになる。

『ポルトガル史』（アルベール―アラン・ブールドン、白水社、1979年、59～60頁）には《教皇庁の黙認の意図にもかかわらず、国家の宗教裁判所が一五三六年につくられ、密告制度や秘密裁判や焚刑の恐怖によって絶対的な力をふるうに至った。（中略）宗教裁判所の所業はひとが想像するほど血なまぐさいものではなかったが、それでも一四五四人の犠牲者（二世紀間に記録された二万四五二二件の裁判について）の数は秘密、密告、暴力などのように、個人の自由を犯し、文芸や科学を沈滞させた当時の世情を考えると少なすぎる感じがする》とある。

つまり、イベリア半島でユダヤ迫害が強まる時期に大航海時代が始まっていた。ヨーロッパで宗教的な圧迫が強まる中、新キリスト教徒の一定部分は率先して、監視の少ない新大陸へ移って行った。そんなポルトガル移民商人の一人が、ディエゴ・ロッペス・デ・リスボアだった。

異端審問で焼き殺されたディエゴの父親

ディエゴの息子ファン・ロドリゲス・デ・レオン・ピネロ（1590―1644）はリマのサンマルコス大学で神学を勉強し、ユダヤ系出自で司祭になった人物として有名だ。彼の経歴を見ると、父方の祖父（つまりディエゴの父）ファン・ロペス・デ・モレイラは1604年に異端審問でその出自を問題にされ、リスボンにおいて公衆の面前で焼き殺された。

つまり、アルゼンチンで日本人フランシスコ・ハポンを所有していたディエゴ。その父親は、異端審問で焼き殺された隠れユダヤ教徒だった。

さらにチリ大学ユダヤ研究センターの研究冊子『La Palabra Israelita VIERNES 7 DE ENERO DE 2005』（訳＝イスラエルの言葉、2005年1月7日号）12頁には、ディエゴ自身もユダヤ教的なふるまいをしているとの疑いが常々持たれていたと書かれている。そのため、ディエゴは自ら神学を勉強し、1628年には神父の資格をとり、新キリスト教徒との疑惑を晴らすことに務めていたとある。

チリ大学の『Los «Portugueses» en el Nuevo Mundo（新世界の"ポルトガル人"たち）』（Cuaderno Judaico nO 23）にも、このような家族の記述がある。

《ポルトガル人"新キリスト教徒"のディエコ・ロペスは、ユダヤ教徒として焼き殺された父の二の舞を避けるために、家族でスペインに逃げたが、ちょうどイベリア半島の二王国統一のタイミングだった。異端審問から逃げるための様にみえるが、ディエゴ・ロペスはインドに向けて出発し、初めはブラジルを通り、後にその先のラ・プラタまで行き、そのブエノス・アイレスで1594年に居を定めた。翌年コルドバに転居し、そこで数年を過ごした。1604年に家族をブエノス・アイレスに呼び寄せ、マドリッドの王家からの信用状を手にした。「血の純化」信者証明書により、1603年にブエノス・アイレスでの異端審問も無事に通過することができた》

ユダヤ人だと疑われるだけで身の危険を感じる時代だった。フランシスコ・ハポンが神父に売られた年は、ディエゴがコルドバにきた翌年だ。

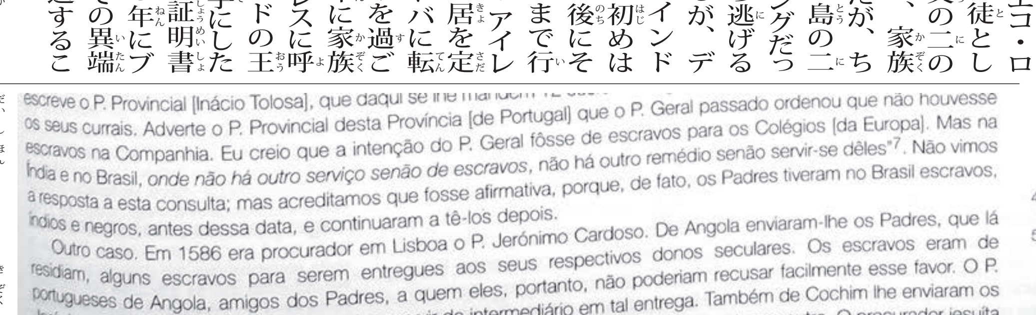
それならブラジルにも？

フランシスコ・ハポンは新キリスト教徒のポルトガル人商人の手により、アルゼンチンまで連れてこられた。この商人は、アルゼンチンの前にブラジルにも住んでいた。アルゼンチンに他にも同じような日本人がいた可能性が高いし、同じような動機やルートで、ブラジルにきていた日本人青年もいても不思議はない。むしろ「いた」と考える方が合理的ではないか。

16世紀後半、ブラジルのバイーアやペルナンブッコでは、サトウキビ栽培と砂糖工場が大規模に経営されるようになり、大資本をもった貴族や金持ちがやってきていた。その中には、ポルトガルやスペインから迫害を免れた「新キリスト教徒」が大勢混じっていたことはよく知られている。彼らの使用人の中に、もしかしたら日本人奴隷がいたかもしれない。

あるブラジル人歴史家に相談したら『Serafim Leite - Historia de Companhia de Jesuita no Brasil』を紹介された。ポルトガル人イエズス会士の歴史家セラフィン・レイチ神父（1890―1969）の著作で、1538年から1563年の間に、ブラジルのイエズス会神父と本国のイエズス会の間でやり取りされた書簡集および、そこからひもといたブラジルにおけるイエズス会の歴史を書いた大作だ。

一部しかのぞいていないが、興味深い内容があった。イエズス会士が1549年に来る以前から、ブラジルには植民者が持ち込んだ黒人奴隷が働いており、「一人の黒人奴隷は、インディオ4人分の働きをすると住民は考えている」「1528年以前だけで4500人の黒人奴隷が運び込まれていた」「アフリカ人奴隷が不足したとき東洋系人種、インド人、モロッコ人をリスボンに送った」（第1巻333ページ）なども書かれている。東洋系の奴隷がブラジルにもいた可能性は捨てきれない。

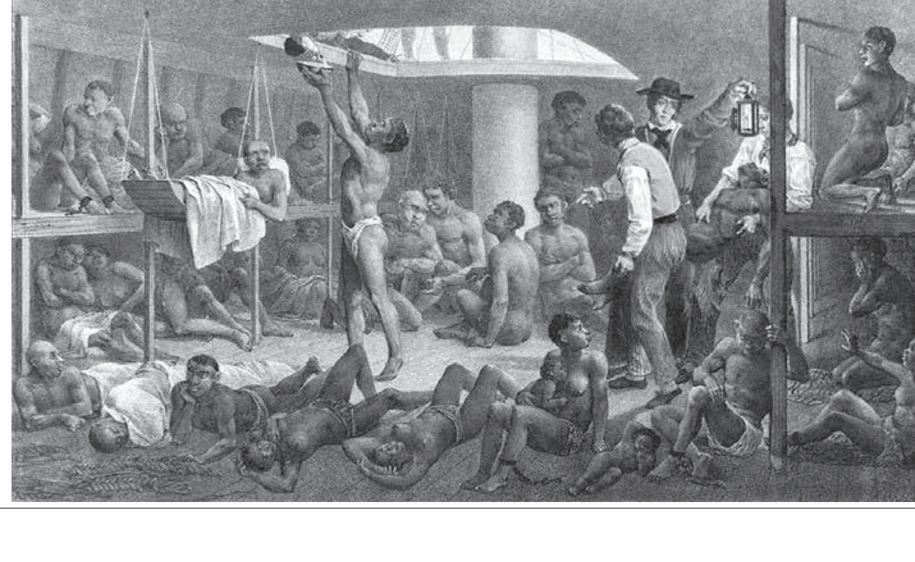

escreve o P. Provincial [Inácio Tolosa], que daqui se lhe mandem ... que o P. Geral passado ordenou que não houvesse os seus currais. Adverte o P. Provincial desta Província [de Portugal] que o P. Geral fôsse de escravos para os Colégios [da Europa]. Mas na escravos na Companhia. Eu creio que a intenção do P. Geral fôsse de escravos, não há outro remédio senão servir-se dêles"[7]. Não vimos Índia e no Brasil, *onde não há outro serviço senão de escravos*, não há outro remédio senão servir-se dêles... os Padres tiveram no Brasil escravos, a resposta a esta consulta; mas acreditamos que fosse afirmativa, porque, de fato, os Padres tiveram no Brasil escravos, índios e negros, antes dessa data, e continuaram a tê-los depois.

Outro caso. Em 1586 era procurador em Lisboa o P. Jerónimo Cardoso. De Angola enviaram-lhe os Padres, que lá residiam, alguns escravos para serem entregues aos seus respectivos donos seculares. Os escravos eram de portugueses de Angola, amigos dos Padres, a quem eles, portanto, não poderiam recusar facilmente esse favor. O P. Jerónimo Cardoso negou-se simplesmente a servir de intermediário em tal entrega. Também de Cochim lhe enviaram os Padres um escravo (que veio na viagem a acompanhar um doente); e do Brasil lhe remeteram outro. O procurador jesuíta em Lisboa insurge-se contra semelhante incoerência, de que se queixa acremente ao P. Geral, e com razão[8]. Notemos que este escravo remetido a Lisboa não era negro, mas de raça oriental, da Índia ou Molucas. Incluímo-lo aqui, à falta de tráfico africano. Foi caso único, assim como também foi único o fato seguinte, referente agora a escravos africanos. A coisa passou-se desta maneira: remeteram do Brasil um escravo para Lisboa. Informado, o P. Geral estranhou-o. Feito um inquérito, responde o Provincial do Brasil, em 1594: "O P. Baltazar Barreira mandou ao P. Marçal Beliarte um negro de Angola, que valeria passante de 20 mil réis: êle o mandou ao Reino, e não se pôde saber a quem; presume-se que a uma sua irmã, casada"[9].

『Serafim Leite -Historia de Companhia de Jesuita no Brasil』 333ページ「アフリカ人奴隷が不足したとき、東洋系人種、インド人、モロッコ人をリスボンに送った」という一節

更に、初期のブラジル植民地には布教師と少数の植民者しかいなかったことから「女性がたりない。孤児をもっと送ってほしい」などの要請が書かれていた部分もあり、リスボンから日本人奴隷の孤児が送られた可能性もないとはいえない。

「1600年前後にブラジルにも、日本人奴隷が連れてこられていた可能性」を調べる研究者に出てきてほしい。（深）


奴隷船の内部（Johann Moritz Rugendas / Public domain）

トランプ氏、逆転再現狙う

逃げ切り図るバイデン氏
米大統領選まで２週間

【ワシントン共同＝仲井大祐、田中光也】11月3日の米大統領選まで20日で2週間。支持率で劣勢に立たされる共和党のトランプ大統領（74）は前回選挙の大逆転劇再現を狙い、接戦となっている激戦州で大規模集会を繰り返す。逃げ切りを図る民主党のバイデン前副大統領（77）は支持拡大に奔走。今回の選挙結果が米国の将来に重大な影響を及ぼすとの認識が広がる中、既に前回投票総数の約2割が期日前投票を済ませたとのデータもあり、有権者の関心は高い。

トランプ氏は新型コロナウイルス感染からの復活を早々と宣言し、精力的に各地を回る。18日は西部ネバダ州で大規模な屋外集会を開き、バイデン氏が勝てば増税で経済回復が遅れると主張。「トランプの復興かバイデンの不況かの選択だ」と迫った。

政治分析サイト「538」によると、全米の平均支持率はバイデン氏が10・6ポイント先行。トランプ氏は、2016年の前回選挙の際に投票2週間前の時点で民主党のクリントン元国務長官に後塵を拝していたこともあり、まだ勝機はあるとみる。

一方、バイデン氏は南部ノースカロライナ州を遊説。医療保険でも党派間の分断が起きていると指摘し「超党派の精神を取り戻そう」と国民融和を訴えた。

今回は新型コロナ対策で郵便投票の利用が急増。フロリダ大の米選挙プロジェクトによると、18日時点で約2800万人が既に郵便を含む期日前投票をしたという。

AP通信が8～12日に実施した全米世論調査では、大統領選が米国の将来に与える影響について63％が「多大」、21％が「相当大きい」と回答。85％が国民の間で価値観が分断されていると指摘した。米国の在り方そのものが問われる選挙との認識が広がっている。

二大争点である経済再生とコロナ対応を巡り、どちらの候補を信頼するかでは、経済はトランプ氏が42％、バイデン氏が40％、コロナはトランプ氏が28％、バイデン氏が49％だった。

再感染、世界で相次ぐ
免疫低下で悪化懸念

【共同＝高木良平】新型コロナウイルス感染から回復後、再び感染する例が世界で相次いでいる。別種のウイルスで重症化した例もあり、変異種が増えれば開発が進むワクチンの効果が及ばない恐れもある。日本での事例は明らかになっていないが、専門家は「再感染しても発症するとは限らず軽症者も多いが、免疫が低下していれば悪化の懸念がある」と指摘。健康維持や感染対策の徹底を呼び掛けている。

免疫を持つ人が自然に増えることでウイルスを抑え込む「集団免疫」の達成が難しくなり、集団免疫を前提にするスウェーデンなどは政策見直しを迫られる可能性もありそうだ。感染から回復したトランプ米大統領は「免疫ができた」と主張し大統領選の選挙運動を再開したが、再感染のリスクは抱えていることになる。

英医学誌ランセットによると、米西部ネバダ州の男性（25）は喉の痛みやせきを訴え、4月の検査で陽性となった。5月の検査で陰性となったが、その後体調を崩し6月に再び陽性となった。

4、6月の検査で採取したウイルスを分析した結果、遺伝子のタイプが異なることが判明。男性は2回目に息切れを伴う低酸素症となり一時は酸素吸入が必要なほど重症化した。

各国メディアも再感染の事例を報道している。南米エクアドルの患者は1回目より悪化し、ベルギー、香港の患者は軽症や無症状だった。英国の女性は、2度目は症状はなかったと話した。オランダの女性（89）は一度回復した後に再感染し、呼吸困難に陥って死亡したとされる。

北里大の中山哲夫特任教授（臨床ウイルス学）は、抗体や免疫が残っていれば再感染しても発症しにくく、発症しても軽症で済むことが多いと指摘。ただ抗体と免疫力は時間がたてば低下し、免疫がなくなったり、質の悪い抗体が感染を増強したりすると重症化もあり得ると推測する。

再感染とは別に、検査の精度の問題などによって、陰性となった患者が再び陽性と判定される「再陽性」も多数報告されている。

米財政赤字、過去最大
２０会計年度、３３０兆円

【ワシントン共同】米財務省が16日発表した2020会計年度（19年10月～20年9月）の財政収支の赤字額は、前年度の約3・2倍に当たる3兆1319億1700万ドル（約330兆円）となり、過去最大を記録した。赤字額は5年連続で拡大し、初めて3兆ドルを突破。新型コロナウイルス感染症の流行で打撃を受けた家計や企業を救済するための対策費が膨らんだことが影響した。

これまで赤字額が最大だった世界的な金融危機リーマン・ショック後の09会計年度（約1兆4千億ドル）の2倍超となった。

新型コロナによる景気後退を受けて米政府は既に3兆ドル近くの対策を実施してきたが、感染が再拡大している中で追加経済対策を求める声も高まっている。11月の大統領選で、減税を掲げる共和党候補のトランプ大統領と、歳出拡大路線を訴える民主党候補のバイデン前副大統領のどちらが勝利しても、米政府の債務残高がさらに膨張するのは必至の情勢だ。

トランプ政権として4度目の年度会計報告となる20年度は、歳出が47・3％増の6兆5518億7200万ドルとなり、過去最大。失業給付が増大したのに加え、企業の雇用支援策を実施したため支出が大きく膨らんだ。一方、歳入は1・2％減の3兆4199億5500万ドル。景気の落ち込みにより所得税や法人税の収入が減った。

議会予算局（CBO）の試算によると、20年度の財政赤字の国内総生産（GDP）比は15・2％と、第2次世界大戦時以来の大きな水準となる。

大統領選でトランプ氏は労使双方が支払う給与税の減税を掲げ、バイデン氏は医療保険や環境投資の拡充を訴える。米民間シンクタンクは、トランプ氏が続投した場合に米国の債務は10年間で4兆9500億ドル増え、バイデン氏では5兆6千億ドル拡大すると試算した。

財務省が同時に発表した9月の財政収支は1246億1100万ドルの赤字だった。前年同月は黒字だった。

中国成長率、４・９％増
７～９月、コロナ回復続く

【北京共同＝竹内健二】中国国家統計局が19日発表した2020年7～9月期の国内総生産（GDP、速報値）は、物価変動の影響を除く実質で前年同期比4・9％増だった。新型コロナウイルスによる打撃からの回復の勢いが持続し、成長率は4～6月期から1・7ポイント増加した。

1～9月期も0・7％増、感染拡大後に初めて累計で増加となった。通年でのプラス成長達成に弾みをつけた形だ。

ただ7～9月は大方の市場予測の5％台を下回った。今後は冬に向けてコロナ感染の再流行を抑え込めるかどうかも左右しそうだ。ハイテク分野での米国との対立も懸念材料となる。

9月の主要指標は、工業生産が前年同月比6・9％増だった。自動車やパソコン、集積回路（IC）などが伸びた。

消費動向を示す9月の小売売上高も前年同月比3・3％増となった。コロナの「巣ごもり需要」を反映して通信機器や化粧品などが好調だった。飲食店は苦戦している。

工場やオフィスビルへの1～9月の固定資産投資は前年同期比0・8％増だった。

中国では1月後半から感染が拡大し、経済活動が停滞。1～3月期の成長率は6・8％減と、四半期の統計がある1992年以降で初のマイナス成長を記録した。

習近平指導部はコロナ収束の見通しが立たないことから、20年の成長目標の設定を見送った。4～6月期に3・2％増まで持ち直していた。

統計局の劉愛華報道官は記者会見で、商品とサービスの消費は回復しつつあると強調した。ただ海外での感染拡大が続いていることから「不確定要素が依然として存在し、国内の需要も不足している」とした。

与党議員トランプ氏と距離
共倒れ回避、集票に影響も

【ワシントン共同】約2週間後に迫った米大統領選を前に、苦戦する共和党のトランプ大統領と距離を置く同党議員が目立ち始めた。大統領選と同日実施の連邦議会選での共倒れ回避や、現政権後を見据えた動きとみられ、トランプ氏の威信低下を象徴。民主党候補バイデン前副大統領は共和党穏健派の取り込みに力を入れており、トランプ氏の各州での集票に影響が及ぶ恐れもある。

「白人至上主義者と仲良く戯れている」。中西部ネブラスカ州選出のサス上院議員は最近、地元有権者との対話集会でトランプ氏を厳しく非難した。同州は保守地盤だが、バイデン氏が勢いを増す。自身の当選は確実視されるサス氏は選挙後をにらむように「トランプ氏に付き従ったことはない」と強調した。

トランプ氏最側近のグラム上院司法委員長も15日の委員会で「（民主党の）ホワイトハウス奪還の可能性は十分ある」と述べ波紋が拡大。保守の牙城南部サウスカロライナ州選出だが、自身の選挙戦の雲行きは怪しい。

今月上旬の西部アリゾナ州での上院議員候補者討論会では、再選が危ぶまれる共和党マクサリー氏が、司会者からトランプ氏を支持してきたことを誇りに思うかと問われても明言を避け、話題となった。

リベラル層が多い東部メーン州で苦戦するコリンズ上院議員は、トランプ氏が指名した保守派最高裁判事の承認採決で反対票を投じるとの見方が浮上。トランプ氏は16日ツイッターでコリンズ氏を名指しし「ひどいうわさが流れている」と造反をけん制した。

トランプ氏は16日、激戦州の南部ジョージア州の集会で、左派が台頭する民主党のバイデン政権になれば「社会主義の悪夢になる」と批判。共和党議員に結束を求めた。

米メディアによると、トランプ氏とバイデン氏が別々に参加した15日の対話集会のテレビ視聴者数は、バイデン氏が約1410万人でトランプ氏を約60万人上回った。劣勢挽回へ多くの有権者に訴えたいトランプ氏に痛手となったようだ。

コロナ感染者４千万人超す
最悪ペース、世界で急増

【ジュネーブ共同＝出口朋弘】米ジョンズ・ホプキンズ大の集計によると、新型コロナウイルスの感染者が19日、世界全体で4千万人を超えた。経済・社会活動の再開を背景に、欧州や米国、イランなどでの感染の再拡大が目立ち、31日で1千万人増と、過去最悪のペースを更新する形で感染者が急増している。

欧州を中心に移動規制の再強化が図られるなど、各国は対応を迫られているが、収束は依然見通せない状況。北半球は冬を迎えるため、新型コロナと共通する症状が多いインフルエンザが同時に大規模流行する恐れもあり、インフルエンザワクチン接種などが重要性を増している。

欧米再拡大、致死率は低下

死者は約110万人で、致死率は3％を切る水準にまで低下。検査の大幅拡充や、医療機関が重症者に対応できているためとみられるが、感染者急増は医療体制への負担を招く。世界保健機関（WHO）は拡大防止策の徹底を呼び掛けている。

感染者数は、中国からの最初の感染例報告から約半年後の6月28日に1千万人超になった。4日後に2千万人、その38日後に3千万人を超えた。今回、31日間で1千万人増加しており、ペースがさらに上がった。

国別では米国が815万人超、インドが約750万人、ブラジルが520万人超と突出して多い。ロシアが約140万人に上り、アルゼンチンも約100万人。WHOによると9月下旬以降、1週間当たりの新規感染者数は200万人を上回る状況が続き、直近では300万人近くにも。欧州では1日当たりの感染者数が連日過去最多を更新する国が相次いでいる。

一方、1週間当たりの死者は9月中旬以降、3万人台後半～4万人近くで推移し増加傾向にはない。軽症者が多い若年層で感染が広がっていることも要因とみられる。

WHO幹部バンケルコフ氏は感染者急増に懸念しつつも、ウイルスの不明点が多かった「半年前とは状況が違う」と強調。ワクチンや特効薬はまだ開発されていないが、対人距離の確保や手指消毒の徹底など誰でもできることが最も効果的だとして、対策継続を訴えている。

歴史の扉開け、無敗３冠
同世代牧馬に敵なし

第25回秋華賞を制したデアリングタクト。右は2着のマジックキャッスル＝京都競馬場（共同）

【共同＝山本智】歴史の扉をこじ開けた。単勝1・4倍の圧倒的人気に支持されたデアリングタクトが早め先頭から押し切り、5戦5勝。JRA史上初となる無敗の3冠牝馬に輝いた。同世代の牝馬に敵なしを改めて証明した。

騎乗した松山騎手は「パドックで入れ込みがあった」と感じたが「馬の力を信じていた」と揺るぎなかった。前半は冷静に中団で待機。徐々に位置を上げると、4コーナーで先頭に並びかけ、最後までしっかり伸びた。

期待に応える快勝劇に、松山騎手は「思っていた通りの位置取り。折り合いもつき、流れに乗れた」と安堵の表情。「プレッシャーはあった。馬にありがとうと言いたいし、おめでとうとも言いたい」とねぎらった。

管理する杉山調教師は「早めに勝ちに行くレースをしたので一瞬冷やっとする場面もあったが、成長が見られた。責任を果たしてほっとしている。次は上のステージでレースしたい」と先を見据えた。現役最強と評されるアーモンドアイや、次週の菊花賞（GI）で無敗3冠を目指すコントレイルとの対戦が待ち遠しい。

ヤクルト戦の7回、阪神・藤浪の球速162キロを表示する掲示板＝甲子園（共同）

藤浪、１６２キロで最速更新
１回を３者連続三振

【共同＝浅山】自己最速を更新する162キロが表示されると、どよめきが起こった。ただ、阪神の藤浪は「わーとなっているので（表示を）見た。そうか、と思った」と関心は薄い。それよりも1回を3者連続三振に抑え、役割をこなしたことを誇った。

1―1の七回から登板。中村、西浦から難なく三振を奪い、代打松本友への2球目だった。高めの直球で空振りを奪い、球速は162キロ。日本ハム時代の大谷（エンゼルス）がマークした球界最速の165キロに一歩近づいた。最後は沈む球で空振り三振を奪い、軽やかにベンチに引き揚げた。「いいボールだったと思います」と球の質に満足した。

新型コロナウイルス感染による離脱者が出て、9月下旬から中継ぎに回った。短いイニングでリミッターが外れ、無心で腕を振る。重心を下げるなど、投球フォームの微修正もはまり「いい感じ。継続していければ」。手応えを深め、球威で圧倒する投球が続く。

実績を築いた先発で長い不振に陥ったが、新たな持ち場で再び輝きを放ち始めた。「慣れてきた部分はある。あたふたしなくなってきた」と表情も明るい。

両国国技館内の相撲教習所で稽古する御嶽海（右）＝17日（共同）

ウイルス対策で様変わり

【共同】新型コロナウイルス感染対策のため予選会の風景は様変わりした。結果発表は大きな掲示板を使わずに成績を読み上げるのみ。各校はそれぞれのテントに分かれて耳をそばだてた。

スタートは横一線ではなく、23チームずつ前後2列に分かれて間隔を確保。大声を控え、ボードを使って指示を送る指導者もいた。ウイルス禍で選手を実家に帰らせ、今も全員が集まれてはいないという国士舘大の添田監督は「選手の夢を諦めさせたくないという思いでやってきた」。異例の予選会を5位で突破して5年連続出場を決め、安堵した様子だった。

御嶽、両大関から刺激

【共同】関脇御嶽海は貴景勝、正代の両大関の三番稽古に刺激を受けた。出世競争で後れを取った優勝2度の実力者は「あそこに自分も参加したい。置いていかれないように、元気いっぱいなので（大関昇進を）狙っていきたい」と気合を入れた。

所属する出羽海部屋は関取が1人なだけに、合同稽古は貴重な機会。この日は平幕霧馬山らに4勝9敗だったが「前に出ることだけを意識してやっていく」と意に介さなかった。

秋場所は8勝止まり。巻き返しを期す11月場所に向け「2桁勝利を狙って、自分の相撲を見つめ直したい」と自らに言い聞かせるように話した。

VENDA em BANCA

Nikkey Shimbun
ニッケイ新聞

ANO XXIII – Nº 5595 SÃO PAULO, TERÇA-FEIRA, 20 DE OUTUBRO DE 2020 R$ 5,00

南シナ海情勢「法に逆行」

首相、名指し避け中国批判

越とビジネス往来再開へ

初首脳会談、防衛協力拡大

【ハノイ共同＝篠原雄也】菅義偉首相は19日、ベトナム・ハノイで、東南アジア諸国連合（ASEAN）に対する外交方針について演説した。中国とASEANの一部加盟国が対立する南シナ海情勢について「法の支配や開放性とは逆行する動きが起きている」と批判した。名指しは避けたものの、軍事拠点化を進める中国を念頭に置いた発言。これに先立つ日越首脳会談では、ビジネス目的の短期出張者の往来再開や防衛協力の拡大で合意した。対面による首脳会談は初めて。

就任後初の東南アジア歴訪のため、羽田空港を出発する菅首相（手前左）と真理子夫人＝18日午後2時14分（共同）

今年のASEAN議長国であるベトナムを初の外国訪問先として選んだのは、東・南シナ海で軍事力を拡大する中国をけん制するため、ASEANと連携する狙いがある。

首相は演説で、南シナ海の岩礁などを埋め立てて軍事拠点化を進める中国と、ベトナムやフィリピンが領有権を争っている問題に関し「日本は緊張を高める行為に強く反対している」と強調。「力や威圧によらず、国際法に基づく紛争の平和的解決に向け努力することが重要だ」と指摘した。

首相は、グエン・スアン・フック首相との会談で、東・南シナ海での一方的な現状変更の試みに「深刻な懸念」を共有した。両国は防衛装備品と技術移転に関する協定に実質合意した。日本は既に米国や英国、フィリピンなど9カ国と同協定を締結。東南アジアへの防衛装備品輸出につなげたい考えだ。

ビジネス目的の短期出張者往来再開は今後、事務当局間で時期を詰める。シンガポール、韓国に続いて3カ国目となる。両首相は、定期旅客便の運航再開でも一致した。菅首相は、生活に困っている技能実習生や留学生などの在日ベトナム人への支援を行っていると述べ、フック氏は謝意を示した。

菅首相は「共にインド太平洋国家として、地域の発展と繁栄のために連携したい」と言明。フック氏は「日本と力を合わせて地域の平和と発展を推進したい」と応じた。

菅首相は会談後の共同記者発表で、新型コロナウイルスの流行で中国から医療物資の輸入が滞った経緯を踏まえ、サプライチェーン（部品の供給・調達網）の多元化を進めると表明した。

フック氏は、北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決へ支持を表明した。記者発表に先立ち、両政府は司法分野協力など12の文書を交換した。

「成長戦略会議」を新設、初会合

首相ブレーン集め検討加速

【共同】政府は16日、安倍前政権下の未来投資会議を衣替えした「成長戦略会議」（議長・加藤勝信官房長官）を新設し、初会合を開いた。菅義偉首相と関係が近いデービッド・アトキンソン小西美術工芸社社長ら有識者8人をメンバーに起用。会合に出席した菅首相は、年末に予定する成長戦略の中間取りまとめに向けて検討を加速するよう指示した。

新会議は、経済財政諮問会議が示す基本方針に沿って、制度改正などで経済成長への取り組みを具体化させる役割を担う。首相の経済ブレーンを加えて新たな運営体制を整え、「菅カラー」の経済政策を打ち出したい考えだ。

菅首相は会合で「企業の生産性向上や新しい働き方の実現、『グリーン成長』というエネルギーや環境政策の再構築などを議論いただきたい」と述べた。成長戦略会議は当面の議題として、企業のサプライチェーン（調達・供給網）強化や中小企業の経営体質強化、バーチャル株主総会の実現、労働移動の円滑化なども取り扱う予定だ。

政府は16日付で未来投資会議を廃止し、諮問会議と未来投資会議に重複参加していた中西宏明経団連会長らは今回、成長戦略会議のメンバーから外れた。これまでの議論は成長戦略会議に引き継ぐ。毎年末に成長戦略の中間とりまとめを示し、翌年6月ごろに正式に内容を固める。

他の有識者メンバーは、ITコンサルティング会社「フューチャー」の金丸恭文会長兼社長、三井住友フィナンシャルグループの国部毅会長、SOMPOホールディングスの桜田謙悟社長、慶応大の竹中平蔵名誉教授、ディー・エヌ・エーの南場智子会長、国際政治学者の三浦瑠麗氏、日本商工会議所の三村明夫会頭。

ワクチン狙いサイバー攻撃

国内初確認、中国関与か

情報流出の報告なし

【共同】新型コロナウイルス感染症のワクチン開発を巡り、機密情報を持つ日本国内の組織に対し研究内容を盗み取ろうとするサイバー攻撃が仕掛けられていたことが19日、情報セキュリティー会社への取材で分かった。国内で攻撃が確認されたのは初めてとみられ、中国のハッカー集団の関与が疑われている。情報流出の報告はないという。

ワクチン開発競争が激しくなる中、研究機関などを狙った情報戦は欧米を中心に活発化している。内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）は製薬会社や研究機関が狙われやすいとして注意を呼び掛けている。

米情報セキュリティー会社「クラウドストライク」によると、4月以降、日本国内の複数の組織に対し断続的な攻撃があり、新型コロナに関係する内容の電子ファイルにコンピューターウイルスを忍ばせてメールを送り付ける手法を確認した。狙われた具体的な組織名は明らかにしなかったが、使われたツールの特徴などから犯人は中国のハッカー集団の可能性があると分析している。

英国、米国、カナダの3カ国は7月、コロナワクチンを開発する自国の研究機関に対し、ロシアの情報機関と関係のある組織からサイバー攻撃を受けたとする報告書を公表した。ロシア当局は関与を否定している。

世界保健機関（WHO）などによると、9月末までに約190のワクチン開発計画が進行中で、最終段階の実験に進んだものもある。日本では国立感染症研究所や東京大、大阪大などが開発を進め、一部は臨床試験（治験）を始めている。

クラウド社でアジア太平洋地域のディレクターを務めるスコット・ジャーカフ氏は「他国に先駆けてワクチン開発を達成するため、国家ぐるみのサイバー攻撃が活発になっている」と指摘した。

PDF版紙面 スマホ・PCで新聞を読もう 好評配信中

中曽根氏の合同葬営まれる

経費、弔意巡り批判も

故中曽根元首相の内閣・自民党合同葬で遺影が飾られた祭壇に献花する参列者＝17日午後、東京都内のホテル（代表撮影・共同）

菅首相「必要な改革実行」

【共同】戦後第5位の長期政権を担い、昨年11月に死去した故中曽根康弘元首相の内閣・自民党合同葬が17日、東京・高輪のグランドプリンスホテル新高輪で営まれた。葬儀委員長の菅義偉首相は追悼の辞で「必要な改革を実行し、国際社会の平和と繁栄に貢献した」とたたえた。合同葬を巡っては、政府による約9600万円の経費計上や、全国の国立大などに弔意表明を求めた文部科学省への批判が出た。

参列者による黙とうの後、菅首相は中曽根政権下での東西冷戦や貿易摩擦に触れ「次世代に向け、全身全霊で新しい道を切り開いた。わが国の国際的地位を大きく向上させた」と述べた。

当時の国鉄や日本専売公社、日本電信電話公社の民営化を断行し、現在のJR各社や日本たばこ産業（JT）、NTTに移行する道筋を付けた功績にも言及。「改革の精神を受け継ぎ、国政に全力を傾けることを誓う」と強調した。

大島理森衆院議長や山東昭子参院議長、大谷直人最高裁長官も弔辞を述べ、故人をしのんだ。友人代表の読売新聞グループ本社の渡辺恒雄代表取締役主筆は欠席し、弔辞が代読された。

合同葬には秋篠宮ご夫妻ら皇室関係者のほか、森喜朗、小泉純一郎、福田康夫、麻生太郎、安倍晋三各氏の首相経験者らが参列した。経費計上や弔意表明を問題視する野党側からも立憲民主党の枝野幸男代表が出席した。共産党の志位和夫委員長は欠席した。

合同葬は当初3月15日に行われる予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、延期された。約1400人が招待されていたが、参列者は約640人にとどまった。

自衛隊 豪軍も防護対象へ

中国警戒、米以外は初

【共同】岸信夫防衛相は19日、来日中のオーストラリアのレイノルズ国防相と防衛省で会談し、平時から自衛隊が艦艇や航空機を守る「武器等防護」の対象に、オーストラリア軍を加える調整に入ることで合意した。実現すれば米軍以外では初めて。2015年の安全保障関連法で可能となった自衛隊の新任務の一つで、東・南シナ海での台頭が目立つ中国を念頭に警戒監視活動を強化する。

両氏が会談後の共同声明で合意内容を発表した。ただ、武器等防護の対象国を拡大すれば、武力衝突に巻き込まれるリスクが高まる懸念もある。

岸氏は共同記者発表で「自由で開かれたインド太平洋を維持強化し、両国の防衛協力をより一層深化させる」と表明。レイノルズ氏は「日豪防衛関係の拡充のため、協働していく」と応じた。

防衛省は、武器等防護の具体的状況として①弾道ミサイル発射を含む情報収集・警戒監視活動②日本の安全に影響を及ぼす事態に直面した場合の補給輸送③共同訓練―を想定している。両国の防衛当局は会談を受け、課長級、局長級の協議を速やかに開始する方針だ。

これに関連し、岸氏は南シナ海周辺海域で、海上自衛隊と米海軍、オーストラリア海軍による3カ国の共同訓練実施を記者団に明らかにした。

会談で両氏は、東・南シナ海での力による現状変更の試みに強く反対する認識で一致。南シナ海で軍事拠点化を進め、領有権を争う他国に威圧的行動を取る中国に関し、深刻な懸念も共有した。

北朝鮮情勢を巡っては、弾道ミサイルを含む大量破壊兵器の完全な廃棄で協力を確認。両国の共同訓練円滑化を目指した「訪問部隊地位協定（VFA）」の締結についても、協議を継続する方針を改めて申し合わせた。

全閣僚 靖国参拝せず

秋季例大祭、首相配慮か

【共同】菅義偉首相と全閣僚は、東京・九段北の靖国神社で17、18両日に開かれた秋季例大祭に合わせた参拝をしなかった。今年8月15日の終戦記念日は安倍内閣下で小泉進次郎環境相、萩生田光一文部科学相ら4閣僚が参拝していた。新型コロナウイルスの影響に加え、就任間もない首相の外交戦略に影響を及ぼさないよう配慮したとみられる。今年の春季例大祭も閣僚参拝はなかった。

今回、首相や大島理森衆院議長、田村憲久厚生労働相、井上信治万博相は「真榊」と呼ばれる供物を奉納した。首相は例大祭で真榊、終戦記念日に玉串料を奉納してきた安倍晋三前首相の対応に倣った格好だ。

国会議員では17日に自民党の衛藤晟一前沖縄北方担当相、18日に日本遺族会会長の水落敏栄参院議員が参拝した。

GoTo 商店街準備本格化

「イベント」も募集開始

【共同】新型コロナウイルスに対応した政府の需要喚起策「GoToキャンペーン」商店街事業の支援対象に選ばれた商店街で19日、催しの準備が本格化した。20日にも松江市の商店街が商品の魅力を伝える催しを始める。感染防止対策の徹底を条件に順次、各地で実施する。

残る「GoToイベント」でも19日からチケット販売業者の募集が始まり、観光、飲食店支援と合わせたキャンペーン4分野が近く出そろう。

催しの準備で話し合う東京都杉並区の「佼成会通り商店会」の関係者＝19日（共同）

東京都杉並区の「佼成会通り商店会」では、支援を受け26～31日にハロウィーンの催しを行う。買い物客らにお菓子や除菌スプレーを配る予定で、関係者は19日に集まり、チラシの内容などについて話し合った。

商店会の担当者は、補助の多くを広告宣伝費に充てるとして「小さな商店街なので、そこにお金をかけられるのはすごくありがたい」と話した。

商店街事業は催しのほか、地域産品を使った商品開発やPRといった活動も対象で、1団体当たり300万円を上限に補助する。複数が連携する場合はさらに最大500万円を上乗せし、総額は1400万円以内とする。経済産業省は第1弾として全国で34事業を採択し、16日に公表した。

イベント事業では、文化芸術やスポーツの催しを対象に、チケット価格を割り引くなどして支援する。今月下旬にはイベント主催者の募集も始める方針で、準備が整い次第実施する。

真理子夫人が外交デビュー

首相ベトナム訪問に同行

【ハノイ共同】菅義偉首相の真理子夫人は19日、ベトナムの首都ハノイでグエン・スアン・フック首相の夫人と史跡「文廟」を視察した。昼食会にも参加するなどファーストレディーとして「外交デビュー」を果たした。真理子夫人は菅首相のベトナム、インドネシア訪問に同行している。

19日午後は、ベトナムの女性に関するファッションや歴史上の役割などを展示する女性博物館も視察した。

20日にはインドネシアの首都ジャカルタで、ジョコ大統領の夫人と懇談する予定だ。

菅首相のベトナム訪問に同行、女性博物館の視察を終え、記念写真に納まる真理子夫人（前列中央）＝19日、ハノイ（共同）

日本プロ野球順位表（共同）

		勝	敗	分	率	差
セ（18日）	巨人	61	35	5	.635	M7
	中日	51	47	5	.520	11.0
	阪神	49	47	5	.510	1.0
	DeNA	49	49	5	.500	1.0
	広島	41	51	10	.446	5.0
	ヤクルト	36	58	6	.383	6.0
		勝	敗	分	率	差
パ（18日）	ソフトバンク	60	39	5	.606	
	ロッテ	55	45	2	.550	5.5
	楽天	49	50	4	.495	5.5
	西武	48	50	3	.490	0.5
	日ハム	46	53	4	.465	2.5
	オリ	38	59	6	.392	7.0

JORNAL ニッケイ新聞 NIKKEY SHIMBUN
EDITORA JORNALÍSTICA UNIÃO NIKKEI LTDA.
Rua da Glória, 332, Liberdade
Cep 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
TEL: (11) 3340-6060 | FAX: (11) 3341-6476
Site: www.nikkeyshimbun.jp
Facebook: www.facebook.com/NikkeyShimbun/
Diretor Presidente: Raul M. Takaki
Jornalista Responsável: Takao Miyagui - MT 15.167-SP
Redator: Masayuki Fukasawa
記事に関するご意見
Redação: redacao@nikkeyshimbun.jp
配達・購読契約に関する連絡
Assinatura: nikkeyshimbun@yahoo.com.br
広告に関する連絡、問い合わせ
Publicidade: anuncio@nikkeyshimbun.jp
Periodicidade: diária (terça-feira a sábado)
Assinatura Impressa
Anual: R$ 840,00 | Semestral: R$ 450,00
Assinatura Digital (PDF)
Anual: R$ 500,00 | Semestral: R$ 270,00